

平成 27 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272100991		
法人名	社会福祉法人 西寿会		
事業所名	グループホームはまなす		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字轟木字津山91		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先
----------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力に応じた手作業、趣味活動の援助。</li> <li>・口腔ケア、手洗いの徹底。</li> <li>・毎月日常生活を記録した家族への広報誌発行。</li> <li>・言語聴覚士による口腔リハビリの実施等</li> </ul>
--

グループホームは地域の端に位置し、前面には海、背には山と豊かな自然に恵まれた長閑な環境にある。法人の理念をベースに地域との輪を盛り込み、グループホームを1件の家と捉え、和を大切にしたい独自の理念を掲げ、日々実践されている。同法人の特別養護老人ホームは、地域に初めて開設された事業所という経緯もあり、住民から全幅の信頼を寄せられており、結束力も高く、地域ぐるみで避難訓練等の活動に協力したり、旬の物を差し入れたり等、良好な関係にある。機能訓練にも力を入れており、専門職を導入し、一定の効果も見られており、家族からも高い評価を受けている。接遇委員会を中心に、入居者が心地良いと感じるような具体的な対応方法を隔月で明示し、実施状況もチェックが出来ており、入居者の安心に繋がっている。グループホーム内部は、掃除が行き届いており、清潔感に溢れ危険箇所も無く、快

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「敬愛」「研鑽」「希望」をもとにグループホームでは笑顔・輪・優・一家団欒・を提示し全職員が理念を理解し、日々のサービス提供に努めている。	法人で掲げた理念をベースに、職員全員の意見を吸い上げ、主任会議で検討して独自の理念を掲げている。地域との輪を大切にしており、グループホームを1件の家として、団欒をもって理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に参加し、日常の散策時に地域の方と談話したり、行事への参加の呼びかけや、防災訓練への協力要請等行っている。	地元保育園とは隔月で互いに訪問し、毎月交流をしている。また、小中学校と成長後は就業体験の受け入れと関係継続が出来ている。夏祭りや敬老会への参加を募り、ゲームや模擬店等好評で子供の参加も多く、散歩時に気軽に声を掛け合う関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての相談を居宅介護支援事業所と協力して行っている。学生のボランティア・研修生の受入れ時認知症についての理解をして頂くため勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画の沿って行い、委員の情報や意見、アドバイスを頂き改善に努めている。自己評価や外部評価の結果については資料を添付し、改善策の話し合いをおこなっている。	定期に開催され、メンバーも定着し、オンブスマンや行政の参加も得られており、活動報告や課題について意見を仰いでいる。また、参加者からも認知症の相談窓口の確認や、減塩食等に対する意見が出されたり、優先順位を決めて対処している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から電話等で情報提供や意見交換をしている。	担当者の異動は少なく長年の関わりで信頼関係が構築され、日頃から密に連携出来る体制にある。法改正の留意点や料金変更についても、その都度確認して回答を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わないという姿勢で、日々すごしている。施錠は戸じまり以外していない。	地域の8ヶ所のグループホームが集まり、持ち回りで研修を行っており、身体拘束に関しても学習している。マニュアルも整備され、何時でも確認出来る体制であり、職員も弊害等について明確に認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、虐待防止の徹底を図っている。虐待のニュース報道があったときはミーティング等で管理者より指導と注意がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による園内研修を行い、以前日常生活自立支援事業を利用された方がおられ、制度の把握に努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結をする際、理念やケア方針等の取組みについて十分に説明し、同意を頂いている。入居者や家族の意向を十分に聞き、ケアプランに反映させている。退去の時には関係者に情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者との話し合いを行い、意見、希望、苦情等の対応をしている。家族や外部の方には目安箱を玄関に置き意見を頂くようにしている。	利用料は基本的に窓口支払いとなっており、毎月の面会確保に繋がっており、その折に家族から意見や要望を聞き取りし、内容を確認して現場に取り入れている。また、入居契約時に町役場や県の相談窓口についても説明し、了承されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議の中で意見交換を行っている他、同法人事業所との合同職員会議において意見交換や情報交換を行っている。又職員の意見を取り入れた事業計画を作成している。	管理者は、日頃から意見を出し易い環境を作っており、入居者の状態変動や業務の改善点等は、その都度報告を受け対処している。又、毎月スタッフ会議を行い、課題を提出してもらい検討しており、年間の事業計画は職員の意見を取り入れ決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて行っている。常に職員の意見を求め、反映に努めている。産業医による巡視もあり、衛生安全委員会が主となり環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て実施、園外、園内研修を積極的に行っている。又資格取得については、勤務の配慮等をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流会を行っており、その際、入居者との交流、職員との意見交換やグループホーム見学もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行って本人の意向を聞き、アセスメントを行い、本人の心身状態や思いを受け止めている他、家族との話し合いに重点を置き、信頼関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行って家族の意向を聞き、アセスメントを行い、本人の心身状態や思いを受け止めている他、家族との話し合いに重点を置き、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人や家族のニーズに対応できるようにしている。又居宅支援事業所や地域包括支援センターから情報を得て、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係づくりに留意し、支援する側、支援される側と意識せず、お互いの得意な部分を引き出し、協力し合い、和やかな生活が営まれるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報収集を行い、本人の思いを伝えたり、家族の思いを伝えたりし、お互いの思いを大切に共有できるよう職員が間に入り支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来てくつろげる場所を提供している。元デイサービスセンター利用時知り合いになった方との交流を兼ね訪問をしている。	以前に隣接のデイサービスセンターを利用していた方が多いため、時折出向き交流している。希望に応じ、職員がグループホームの車輛を使い、美容院への外出を支援したり、衣類の購入希望があった場合は、在宅時利用していた地元の商店に出張販売を依頼し、好評を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、日々の行動について見守りを重視した働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合(入所・入院・在宅)には、面会や行事へ招待し交流をしている。特養に移った場合は情報提供はもちろん、毎日顔を合わせるので会話を持ち交流している。家族の方も面会の際立ち寄ってくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はもちろんの事、入居後も聞き取りを充分に行い、必要に応じて本人を知る関係者から情報収集を行っている。	日頃から会話の時間を多く持ち、行動や手振り身振り等からも思いを把握するように努めている。又、うつ病等の精神疾患についても職員自ら学習の機会を希望し実施、理解を深め、適切な対応で安定に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人、家族から情報収集し、入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、プライバシーに配慮しながら全体像を感じとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での行動や体調の変化を観察し、個人を理解し、支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、職員全体で介護計画を作成し、モニタリングやカンファレンスを行っている。	本人・家族の意向を踏まえ職員で話し合い、介護計画を作成し、アセスメントしている。半年での見直しや、評価等行われており、書類も整備されている。	カンファレンスの様式を整備し、個々の課題に添った検討を行い、計画に繋げる事で、職員間でもより確認し易くなり、実効性の高い計画を立案、実践される事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子や身体状況等本人に関する全ての情報が見られるよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援・送迎・外出支援を行っている。医療面においては同法人事業所の看護師に相談、援助をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、婦人会、消防分団、消防署等の協力により、防災訓練を行っている。学生や婦人会の方が日々支援に協力してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医への受診が殆どである。又かかりつけ以外にも協力病院があり通院介助も家族の同意のもとで行っている。	主治医は継続していただき、通院も職員がグループホームの車輛を使用して支援している。また、急遽受診が必要となった場合は、家族に依頼する事もあり、協力を得ている。治療内容の変更や結果についても、その都度家族に連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人事業所の看護員と相談できるシステムづくりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して、早期退院に向けての働きかけや、面会時に病院側からの状態報告の確認や、地域連携室のワーカーさんとの情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いにより、かかりつけ医との連携を密にし、対応できる体制づくりをしている。	入居契約時に、本人や家族の意向を確認して、隣接の特別養護老人ホームへの移行も視野に入れた対応を説明している。また、重篤な状態が予測される場合は、早い段階で主治医や家族と方向性を検討し、納得を得て共通認識のもと支援展開している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員は救急時の対応についての勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定し、年5回の訓練を行っている。年2回は消防署・分団・地域住民の協力を得て防災訓練を行っている。防災委員会・安全委員会を設け問題ある時は随時検討会を開いている。	年5回避難訓練を行い、内2回は消防署立ち合いのもと、分団・自治会・婦人会等地区住民の参加を得、避難誘導を行っている。法人で防災委員会を設置し、協力団体に委嘱状を交付、団結力も強く地域ぐるみの協力体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳をもって対応している。職員は接遇委員会での学習会や外部講師を定期的に招き勉強会を行っている。	接遇委員会を中心に、入居者の尊厳を大切にしたい対応を学習しており、職員は優しく丁寧な対応を実践している。ユマニチュードケアを導入し、「見る」「話しかける」「触れる」「立つ」を実践し、入居者の安定に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を取り入れ、本人が選択しやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、その時の状況に応じた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や整容に関しては本人の意思を尊重し、選択していただく、お化粧のアドバイスもしてあげている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や旬の物を使い皆さんから意見を頂きメニューづくりをし、下ごしらえや味付け、後片付け等入居者と一緒に行っている。誕生日には自分の好きな物が献立され全員で頂ける。	周辺に生える山菜の収穫時期を入居者から教えられたり、地域住民から旬の物を差し入れられる事が多く、入居者が率先して下拵えを行っている。献立は希望に応じて作成し、喜ばれており、食後の片付けも有用感を持って行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士にメニューの確認をして頂く。嗜好調査や残量把握をおこない、代替食にも対応。毎日検食日誌を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後・おやつに前後のうがい手洗いを心掛け、食事前の口腔体操を行っている。言語聴覚士による指導も必要によって行われている。個々にあった歯磨き指導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、個々の排泄パターンの把握をしている。プライバシーを損なわないように声がけしながら支援をしている。	個々の排泄パターンの把握と、日常の行動を細かく観察し、排泄のサインを察知して誘導しトイレでの排泄を支援している。周囲に気付かれないようさり気なく声を掛け、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探ると共に、食材や献立にも工夫し運動の働きかけも行っている。場合によっては主治医の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間帯については決められているが、希望があった場合は対応できるよう配慮している	週2回の入浴は設定しているが、他の希望にも対応は可能であり、夏場は随時シャワー浴も追加し保清に努めている。又、以前は夜間入浴も行っており、希望があれば再開出来る体制にある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動により生活リズムを整え、快く就寝出来る様に支援している。必要に応じて医療機関に相談し、眠剤を服用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を個人ケースに綴り、職員が内容を把握できる様にしている。必ず本人に手渡し服薬できているか確認している。内容の変更があった場合は、本人や家族はもちろんの事職員への申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や趣味、特技を把握し、その方にあった役割や楽しみごとを活かせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突然の希望には答え難い所があるが、予定を取り入れ外出や買い物は可能である。家族の協力を得ながら外出や外泊をしている。	日常的に天気の良い日は、地域内に散歩に出掛け、住民と気軽に挨拶を交わしている。又、周辺に生えている山菜の収穫に出掛けたり、年間計画に外部行事も組み入れ、外出の機会を確保している。お盆や正月の帰省も楽しみのひとつになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、小遣い程度の所持金を持たせており、安心と満足感が保たれるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるようにしている。近況報告を兼ね担当介護員が本人と一緒に電話をしたり、遠方のご家族には写真を添えて手紙を代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風造りの建物で、居間からは庭が見え、イチジクやグミの木、畑が見ることができる。共用部分はほど良い広さがあり、ゆったりできる。	共有スペースには大振りのソファが置かれ、ゆったりと寛ぐ事が出来、天窗からの採光にも恵まれ、明るく落ち着いた空間になっている。施設内の清掃が行き届いており、清潔感に溢れている。前面の海に沈む夕陽は自然が織り成す大パノラマで、入居者の感動を呼んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	絵画や観葉植物を飾り、居間や廊下、多目的ホールを利用し、趣味活動や語らいを楽しむことができる。海側の廊下からは夕陽が綺麗に見ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅で使っていた家具や愛用品の持ち込みは自由であることを話している。居室にはテーブルと椅子が置かれてありテレビを見たり家族との面会時気兼ねなく寛げる。	自然に囲まれた立地であり、窓からの眺望も良く、居室には愛着のある家具や私物、観葉植物等持ち込まれ、在宅に近い自分らしい空間となっている。各居室共に整理整頓され、安全に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室名は分かりやすいように地元の方言で呼ばれる魚の名前が付けられている。建物自体がバリアフリーで浴室、廊下、トイレ手すりが設置され、個々の身体状況に応じ車椅子や歩行器の使用が可能である。		